

2020 年度 事業報告書

公益財団法人 日本 AED 財団

I. 事業期間

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

II. 事業報告

「心臓突然死から市民を救うことを目的とし、もって我が国における安全安心を確保することを目指す」という財団の理念に基づき、School（学校への心肺蘇生・AED 教育の普及促進、学校での心臓突然死ゼロを目指した取り組み）、Sports（スポーツ現場への心肺蘇生・AED 教育の普及促進、AED 活用体制の整備によるスポーツ現場での心臓突然死ゼロを目指した取り組み）、Social（社会運動と Social Network を活用した救命システムの確立と普及、情報発信）の 3 つの S に基づいて、取り組みを行った。

設立 5 年目を迎えたが、公益財団法人としての管理体制、基盤の強化に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、事業活動や予定していたイベントの多くが中止や延期もしくは例年とは異なる形での開催となる等様々な影響があったが、オンラインでの会議や講習会の開催、フォーラムのオンデマンドでの配信など工夫を行い目的の達成に向けた事業の継続に努めた。

III. 会議開催

定款に基づき以下の会議を開催した。

評議員会(3回)：6月9日(於:KKR ホル・WEB)、8月31日(書面開催)、10月23日(書面開催)

理事会(5回)：5月14日・6月9日・8月18日・10月15日・3月18日

(於：5/14・10/15・3/18 は WEB、6/9 KKR ホル・WEB、8/18 書面開催)

実行委員会：(2回) 8月20日(於: WEB)・3月2日(於 WEB)

《主な取り組み》

(1) 社会全体に対して行う事業

①AED 推進フォーラム

減らせ突然死 AED 推進フォーラム 2020～コロナ時代における救命のニューノーマル～を開催。新型コロナウイルス感染症予防のため、恒例の大会形式の開催は控え 12 月にビデオ収録による無観客開催とした。収録動画を DVD で関係協力団体に配布し、今後は広く一般に知っていただくため動画をホームページに掲載する準備を行った。また、「減らせ突然死 AED 推進フォーラム 2020」冊子についてはホームページに掲載した。

<https://aed-zaidan.jp/report/20210105.html>

収録内容は、名誉総裁である高田宮妃殿下よりごあいさつのお言葉からはじまり、講演は「市民のための救命マニュアル：ASUKA モデル」、「市民を動かす啓発 言葉の工夫」、「市民を動かす啓発 視覚のイメージの工夫」、「市民をつなぐスマホ：救命への IT 活用」の 4 本で、その後「次世代に向けた救命の仕組み作り」として総合討論を行った。

②表彰事業 (AED 功労賞)

AED の利活用促進の為の仕組みや仕掛け作りに貢献した個人や団体を表彰し、さらなる利

活用を促進することを目的に表彰事業を実施した。AED を活用して救命に関わった個人・団体を全国から自薦・他薦を得るためホームページ上、チラシ等により広く募集し、15 件の応募があった。選考委員による公平な審査を経て①の AED 推進フォーラム冊子、ホームページでその取り組みを広く社会に発信した。今回は賞状・賞品を表彰者へ郵送する形での表彰とした。

今年度は下記 3 件が表彰された。

【最優秀賞】 齋藤 優輝 様

「小学 5 年生が父親を救命」

【優秀賞】 春日部環境衛生事業協同組合 様

「家庭ごみ収集車への AED 搭載」

【優秀賞】 一般財団法人どんぐり財団 様

「巡回車への AED 設置・公共施設内での AED 貸出し」

③情報発信

- ホームページや各種 SNS での情報発信を実施した。
- より情報が伝わりやすいよう、ホームページの改修に着手した。
- ニュースレターの発行。当財団の活動の周知と啓発に役立てた。
<https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/20200618NewsLetterVol.8.pdf>
<https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/20201023NewsLetterVol9.pdf>
- AED を学ぶための e ラーニング教材『心止村湯けむり事件簿』は好評により配信を継続。
<http://aed-project.jp/suspence-drama/>
- AED 大使の協力による情報発信
中村憲剛大使：サッカースタジアムでの AED 啓発ビデオに出演
蝶野正洋大使：ガシャポンミニチュア AED を使った AED の使い方を説明した YouTube に出演(2020 年 2 月)
- 宝くじの社会貢献広報事業の助成を受けて「命を守る 心肺蘇生 AED」教本 50 万部の制作・配布を行った。全国の空港、駅、スポーツ団体などに広く配布し、活用いただいた。

④AED に関する調査・提案

2019 年 7 月に経済産業省から発表された AED の JIS マークの普及、啓発に努めた結果、東京都の交番に加え、東京消防庁の各消防署に新 AED マークとして掲示された。

<https://aed-zaidan.jp/report/20201218.html>

(2) スクール関連事業

①学校教育関連団体との協働事業の推進（学習指導要領への記載）

小学校から始まる学校での救命教育を推進するため、小学校の学習指導要領への新規記載、中学校高等学校の指導要領における位置づけの強化、教員養成課程への救命教育の導入などを求める取り組みを進めた。

②救命教育副読本等の配布

小学校安全教育用副読本を作成し、ホームページや案内用チラシ等を通じて、広く小学校に紹介し、希望する学校(941校、109,969冊)へ配布した。また、配布した学校に対しては副読本を活用した救命教育に関するアンケート調査を行った。合わせて成人用の副読本も作成し、ホームページからダウンロードできるようにした。

③情報発信

- 桐渕理事が中心になってまとめた『ASUKA モデル』と小学校からの救命教育の推進の研究冊子を公開

https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/download/Kiribuchi_report.pdf

- 宮崎市の小学校で起こった児童の心停止に対する素晴らしい救命リレーについて、朝日新聞デジタルの取材に協力し、動画でのニュースが公開された。

<https://aed-zaidan.jp/report/20210208.html>

④学校版 EAP(エマージェンシーアクションプラン)の作成・配布

効率よく AED を配置し教育現場での心臓突然死を減らすために、学校関係団体、医療関係団体と連携し、学校においてどういった場所に AED を配置し管理すべきかの指針となる学校版 AED 設置ガイドラインを作成し、ホームページ・ポスター・チラシ等で広く社会一般に配布・配信を行った。

https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/download/School_EAP.pdf

⑤スクールフォーラムの開催

救命教育導入への基盤を構築するため、研究委嘱校において、救命教育のモデル授業やシンポジウムを千葉市立新宿小学校で開催する予定だったが、コロナの影響で1年延期となった。

(3) スポーツ関連事業

①提言の作成とその啓発と実践

『スポーツ中の心臓突然死ゼロを目指して』、及びスポーツ版 EAP(エマージェンシーアクションプラン)を作成・公開し、スポーツ団体に導入を促した。

https://aed-zaidan.jp/user/media/aed-zaidan/files/download/EAP_Sports.pdf

②スポーツ施設の AED 設置場所ガイドラインや案内標識の見本提示

東京オリンピックパラリンピックが1年延期となったので引き続き「2020 東京オリンピックパラリンピックに係る救急・災害医療体制構築を検討する学術連合体(コンソーシアム)」に当財団理事が委員として参加し、競技場や街中での AED の設置基準、AED 案内誘導表示の標準化について意見を述べた。また、ボランティアの救命講習会に講師として参加した。

③スポーツ中の心停止事故等に関する情報収集方法の検討

安全なスポーツ環境の構築のため、関係機関、スポーツ関係者・大学・研究機関の教員・研究者等の有識者と共に、データに基づいた救護救急体制の整備構築を提案し、安全なスポーツ環境の構築に繋げることを目指し、スポーツ中の心停止事故等に関する情報の収集方法について検討を進めた。

④スポーツを通じた心肺蘇生・AEDの啓発

スポーツ向けAED啓発動画を監修し、財団実行委委員の医師によるアニメによるわかりやすい解説動画を配信した。

300秒のキセキ【スポーツ編】

<https://youtu.be/6L-iEydV0m0>

日本AED財団の医師（本間実行委員）による解説動画

<https://youtu.be/Mfbsw9DgSeg>

(4) ソーシャルムーブメント関連事業

①各種団体と連携した社会活動の促進

AEDの認知度向上を目的として、心肺蘇生・AEDの利活用、普及促進につながる活動を各種団体（厚生労働省、消防庁、日本救急医療財団、日本心臓財団など）と連携して行なった。他の団体主催のイベントに参加し救命講座などの開催や、マスコミからのAED取材への協力を行うことなどにより社会活動を促進した。

【マスコミ取材等（新聞・TV・保健所等）への対応による促進活動】

（石見専務理事）

- ・7月1日 日テレの朝の情報番組スッキリで「会田コーチの人命救助」が取り上げられた。石見専務理事への取材内容とAED財団のホームページからの引用があった

（本間実行委員）

- ・6月21日 日テレおは4に出演

（桐淵理事、桐田氏）

- ・7月27日 NHKテレビ放送の「逆転人生」に出演。

（本間実行委員）

- ・9月9日 NHKテレビ放送の「あさいち」にVTR出演

（スクール部会）

- ・12月2日 文科省ホームページに「学校でのEAP利用のニュース」が掲載された

【著作物の監修等による促進活動】

- ・東京都多摩府中保健所

女性へのAED使用率をあげるための資料開発を監修

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/tamafuchu/yakuji/aed_shiyo.html

【共催・後援】

- ・10月30日 公益財団法人埼玉県臨床工学技士会 第18回県民公開講座への後援

②高精度全国AEDマップ『AED N@VI』の構築

ボランティアの協力を得て、精緻なAED設置情報を継続的に取得し更新し続けることの出来るAEDマップ（AED N@VI）を運用し、信頼性の高いAED設置情報を共有している。『救命サポーター』として登録したボランティアを通じてAEDの設置情報を受け取り、ホームページ・チラシ等で広く社会一般に公表した。

3月31日現在の登録数は

個人サポーター：6,115人、団体サポーター：62団体、AED登録台数：66,000台

③AED 救命支援システムの普及に向けた課題の整理

心停止現場付近にいる登録ボランティアへ、消防を通じて心停止発生情報を共有し、AED を現場に運ぶというシステムに関する課題の整理を行う事で、全国の既存 AED が活用される機会を増やす活動を進めた。AED マップ・AED 救命支援システム活用検討会については、新型コロナウイルス感染症の影響で開催せず、AED の活用促進に向けた課題が生じた際に適宜対応する形とした。

④AED 講習会の開催

会員及びその他企業、スポーツ団体等から講師派遣の依頼を受け、AED 講習の機会を提供している。また、今年度はコロナの影響で対面講習ができなかったためオンラインでの開催方法を確立し、WEB で定期的にオンライン AED 講習会を実施した。本取り組みを通じて得たノウハウは、日本赤十字社をはじめ、全国の AED 講習会を提供する組織や個人と共有した。講習会の実施は、企業へ 9 回、学校・自治会、その他へ 2 回、財団事務局より WEB での定期開催 28 回の計 42 回で、延べ 3,000 人の受講となっている。

以上